

新任医師紹介

平成27年2月1日現在

新たに3名の
医師を
迎えました。



加藤 祥子医師
脳神経外科



西村 尚子医師
内分泌科



二宮 菜奈子医師
麻酔科

第11回クリスマス会

平成26年12月14日(日)、11回目を迎えるクリスマス会が開催されました。色鮮やかなイルミネーションがキラキラと輝く中、子どもたちの元気な歌声と笑い声が響き渡りました。

今年度は5月から始まった全日二次救急医療の関係により、例年とは違う大会議室での開催でした。その分観客と発表者の距離が近く迫力満点の出し物になり、スクリーンや照明も活用した大会議室ならではのとても楽しい会となりました。子どもたちやスタッフ、ボランティアさんによる見所いっぱい出し物をここで少しご紹介します。午後1時、雪だるまのユッケンを連れてツリーやサンタに扮した司会者が登場!期待で胸を膨らませる中、さあ幕明けです。まず始めに盛り上げてくれたのは、病棟の子どもたち。AKBの音楽に乗せて、スクリーンいっぱいにメッセージのリレーをしたり、妖怪ウォッチのダンスの発表をしたり…。お客さんも口ずさみながら、会場が一体となりました。他にも、楽器の演奏やお笑いなどもあり、この日のために練習してきた成果を存分に発揮してくれました。スタッフの有志からは、伸びやかな歌声でクリスマスソングのプレゼント!そして、毎回笑いを届けてくれるクラウンさんは、なんと!!「ミスユニバースあいち」代表の美女をお供に様々なパフォーマンスを披露!最後に登場したのはもちろん、クリスマスの主役サンタさんです。今年も子どもたち全員にプレゼントを持ってきてくれました。病棟から出られない子のために、ベッドサイドまでプレゼントを配ってくれ、みんな大喜び。とても心優しいサンタさんでした。こんな大盛況の中、クリスマス会は幕を閉じました。今後も子ども達の療養生活をよりよいものに出来るように、スタッフが一丸となり取り組んでいきます。



看護部だより 31病棟



みなさん、こんにちは。31病棟です。

31病棟は、腎臓科・内分泌科・感染予防科・アレルギー科の内科系4科に脳神経外科を加えた5科の混合病棟です。入院される患者さんの年齢も新生児から二十歳を超えた方まで様々です。また、入院期間も日帰りから年単位の方まで様々です。中には、定期的な入院を繰り返す患者さんや治療を受けながら学校へ通う患者さんもいます。

その中で私たちは、日々成長発達を続ける子どもたちにあった関わり方ができるよう心がけています。例えば、医師や保育士と協力し、これから行われる検査や治療についてその子がわかるように、わかりやすい言葉を選び説明します。絵本やお人形を使って説明することもあります。また、検査や処置前の不安や嫌な気持ちを少しでも和らげ、痛みなどを軽減できるように、話しかけたりおもちゃを使って気を紛らわしたりしています。そのためのおもちゃも処置室に準備しています。そして、もちろん子どもが頑張れた時にはたくさん褒めます。こうすることで、子どもたちが元々持っている「頑張る力・物事に立ち向かう力」を伸ばす手助けになればと考えています。

私たちは、子どもたちの笑顔が何よりの励みとなっているのです。



処置中に気持ちを和らげるために使うおもちゃ



採血の説明用に使います



手術後イメージするための人形



腎移植後の説明ツール。点滴やおしっこ管などが取り外せるようになっている

保健センターだより 7 子ども図書室

入院や外来通院する子どもとその家族のために開設し、13年が経過しました。平成25年度の利用者は6500人、貸出数は1,020冊で、毎年多くの方に利用してもらっています。蔵書数は約4000冊、乳幼児から低学年向けの絵本、児童書、中高生向けの図書もそろい、開館時間は担当者が常駐して相談できます。ボランティアが行っている「おはなし会」では楽しそうに参加しところがほぐれる時間を親子で過ごしてもらっています。また、保護者向けの書籍棚の横には、椅子をおき「ほっとスペース」を設置しています。その椅子に隠れるようにして、悲しまれながら本を読む母親の姿や、付添いに疲れ少し離れて心を休める親たちの光景もあります。図書室への来所目的は様々ですが、「また来たい」という方がほとんどでした。子どもから「素敵な本を選んでもらった」「パソコンもあってうれしい」という声や、保護者から「通院のたびに図書室の存在にホッとする」「入院中の子どもにとって本と触れ合える場所ありがたい」「入院生活のストレスの中で本の癒し効果は絶大なので有難く素晴らしい」と感想が寄せられています。子どもの疾患と向き合う親子にとって図書室は、療養環境として無くてはならない貴重な場所となっています。



子ども図書室の様子



おはなし会